年間授業計画

高等学校 令和７年度（２学年用） 教科 国語 科目 文学国語 年間授業計画

教　科：　国語　　科　目：　文学国語　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　A　組～　E　組

教科担当者：　(A組：川口)　(B組：川口)　(C組：川口)　(D組：川口)　(E組：久保田)

使用教科書：（　筑摩書房「文学国語」　）

教科　**国語**　の目標：

【知識及び技能】　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　深く共感し創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高めることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】　言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり考えを深めたりしながら、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目　**文学国語**　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	領域 話聞	領域 書	領域 読	観点別 知	観点別 思	観点別 態	配当時数
1学期	「ことばから広がる世界」 周りの情報を遮断して個々人の世界に閉じこもる「プラスチック膜」という比喩と、それが破れて感情が伝わり合う表現の意味を理解する。	「プラスチック膜を破って」梨木香歩 「プラスチック膜」の正体を読み取り、その役割やそれが「破れる」時の語り口から心を豊かにする文章について学ぶ。	【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。			○	○	○	○	4
	「ことばから広がる世界」 電子書籍やタブレット端末等、メディアの非物質化が進む現代だからこそ、「紙」の書籍の魅力が一層生きてくることを、食事との類似性を通じて理解する。	「情報の彫刻」原研哉 電子メディアの台頭とともに文学の教授の仕方が変わっていく中、紙という物質の魅力について学ぶ。			○		○	○	○	5
	定期考査				○		○	○		1
	「物語との出会い」 人間が虎に変身する、というフィクションを通して、人間の自我をめぐる葛藤と人間という社会性は何によって獲得されていくものなのかという視点を学ぶ。	「山月記」中島敦 フィクションの世界だからこそ際立つ人間の姿を通して、作中人物の言葉から普遍的な人間真理を学び取る。		○			○	○	○	7
	「背後にあるメッセージ」 当然のように存在する事象の背後には、何かに徹することに生涯を捧げた先人がいるという事実を通して、この世界があることと人が生きることとの関係について理解する。	「ラムネ氏のこと」坂口安吾 それぞれの例え話に託された共通点を読み取り、隠されたメッセージを理解する。			○		○	○	○	5
	「調べとリズム」 オノマトペや比喩を効果的に使いながら、妹の死を昇華させようとする作者の表現を通じて、生命と宗教との哲学観を学ぶ。	「永訣の朝」宮沢賢治 筆者独特の言葉遣いや表現の魅力について学ぶとともに、そこに込められた妹への思いを読み取る。			○		○	○	○	3
	定期考査				○		○	○		1
2学期	「自己と向き合う」 Kの死と私の死とを通じて、なぜ二人が自殺ということを選ばなければならなかったかを、自我のあり方と利己的な遺伝子と社会性との関連を踏まえながら、明治という近代が当時の人々にもたらした生き方の変化について学んでいく。	「こころ」夏目漱石 それぞれの登場人物の心理が「私」の視点によって読み取られることによって、人間同士が理解しあうことの難しさが表現されていることを学ぶ。	【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。	○			○	○	○	12
	定期考査				○		○	○		1
	「思考の道筋をたどる」 「化物がないと思うのはかえって本当の迷信である」とする、一見すると意味の通らない主張が、実は科学的な知識と経験に基づいた逆説であることを理解する。	「化け物の進化」寺田寅彦 科学者には「化物教育」が必要だという筆者の主張は何を意味するのかを科学と迷信との逆説から学ぶ。		○			○	○	○	5
	「世界観を築く」 生活を営んできた建物を容易に壊しては作り直す、という姿勢が人間にもたらすものを、トマス・ハーディの詩の引用、そして比喩とレトリックによって、その破滅性を学ぶ。	「建築論ノート」松山巌 建物を作っては壊すという時代は人間に何をもたらすかを比喩とレトリックによって表現される論理を学ぶ。			○		○	○	○	5
	「自己と向き合う」 英国留学に行って神経衰弱にまでなった日本人である筆者が、自我というものを持たなかった前近代から、個人主義という独自の生き方を見出したことを学ぶ。	「私の個人主義」夏目漱石 大正時代に行われたこの講演記録を読むことによって、当時どのような時代の転換があったのかを学ぶ。				○	○	○	○	4
	定期考査				○		○	○		1
3学期	「過去との対話」 人々が打ちのめされ、破壊される悲劇を前に、死者の声、声にならない声を伝えることを通じて、文学だけが持ち得る可能性について理解する。	「死者の声を呼ぶ小舟」小川洋子 具体例として挙げられた文学作品を通して、文学にはどのような「力」があるか、筆者の主張を読み取る。	【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。	○			○	○	○	5
	「世界観を築く」 「記憶」と「時間」をテーマに、墓石の写真、ミイラ、そして能へと展開される論旨を通して幾種類もの時間が同時並行に流れる能 の奥深さを学ぶ。	「能　時間の様式」杉本博司 写真や能を通じて筆者が感得した論理を読み取り、時間とはどのようなものなのかについての考察を深める。			○		○	○	○	6
	「日常の裂け目」 ゴミと格闘する「わたし」という、一見突拍子もない物語を通して、筆者の創造力と言葉への熱い思いを読み解き、その世界観を理解する。	「捨てない女」多和田葉子 ゴミと格闘する「私」の姿から、比喩と想像力によって生み出されることばのひろがりを読み取る。		○			○	○	○	4
	定期考査				○		○	○		1
										合計 70